

エカフェ域内貿易の現状と特色

〔要 旨〕

1. 先進国と低開発国間の経済格差拡大という、いわゆる南北問題の解決を図るには、一次産品市場の長期的低迷に基因する低開発国の貿易ギャップの解消が不可欠であるとの認識に基づき、今春の第2回国連貿易開発会議において、低開発国は「援助より貿易を」の旗じるしの下に先進国に対して一般的特惠供与など大幅な譲歩を求めた。一方、EECが1958年に発足して以来、地域ブロック化の傾向が強まり、低開発地域でも中南米、アフリカの各地にあいついで地域経済機構が結成され、経済開発の促進、分業体制の確立と合わせて、低開発国相互間の貿易を拡大しようとの動きを生じた。

このような世界経済の潮流を背景に、アジア・大洋州地域を包括するエカフェ諸国でも、人種、宗教、政治の多様性をこえて、地域経済協力の実効をあげるため、アジア開発銀行の設立に次いで「エカフェ域内の貿易拡大」を重点目標とし、具体策の検討にはいつている。

2. エカフェ域内貿易の実情を検討してみると、域内貿易は日本、豪州、ニュージーランド3国の域内先進国間の取引きおよび域内先進国と域内低開発国間の取引きが全体の7割を占め、広範な地域を占める域内低開発国間の取引きは3割にすぎない。

さらに、域内貿易収支をみると、日本、豪州など少数国が恒常的出超に対し、低開発国の多くは恒常的入超であるという片貿易構造となっており、かつ年々入出超幅は拡大傾向を示している。

3. 以上のようなエカフェ地域の貿易構造を1964年の商品別、地域別貿易統計から分析してみると、次のような要因が指摘される。①域内低開発国の輸出の7割を占める一次産品(ゴム、茶、ジュート、砂糖等)が、先進国向けの商品であるため相互補完性に乏しく、かつ輸入の大半は先進国からの工業製品であるため、おおむね垂直貿易型の構造となっている。②各国の輸入代替産業育成策は、繊維、セメント、雑貨等同種産業に集中、しかも自国産業保護の見地から、それぞれ輸入障壁を高めているため、工業品の相互補完的取引きは進展をみていない。③域内諸国と先進国間の既存特惠や援助などの特殊関係が両者の取引きを緊密にしている。

4. こうした貿易構造は容易に変わるものではないが、エカフェ諸国の間に、域内協力による産業調整や域内貿易自由化の重要性に対する認識が高まりつつあるので、エカフェ地域との貿易のウエイトの高いわが国としても、今後の成行きを注目していく必要がある。

〔目 次〕

I はしがき	(3) 工業製品
II エカフェ諸国の貿易動向	3. 域内小地域間の貿易の特色
III エカフェ域内の貿易構造	4. 域内貿易収支と補完性
1. 域内貿易の現状	IV 問題点と今後の展望
2. 域内貿易の商品構造	1. 問題点
(1) 食 飲 料	2. 今後の展望
(2) 原 燃 料	

I はしがき

戦後の世界経済は、先進国を中心に、技術革新に基づく生産力効果と、それに伴う工業国間の水平貿易を主軸に飛躍的な発展を遂げている。しかしながら、戦後独立を勝ちとった多くの低開発国は、多額の援助を背景に意欲的な経済開発を進めているが、一次産品市況の長期的低迷と対外債務の累積から国際収支困難に陥り、これが制約となって、先進国との成長格差はますます拡大の一途をたどっている。

このような事情から、低開発諸国の間に、南北問題解決の打開策を「援助よりも貿易拡大」に求めようとする動きが起り、今春の第2回国連貿易開発会議においては、先進国に対して、戦後の世界貿易体制の指導理念であるガットの自由貿易・無差別の原則を修正し、低開発国産品に対し一方的の特恵を認める「新しい秩序」の確立を求めた。

一方、このような先進国に対する動きと並行して、低開発国相互間において経済開発の促進、分業体制の確立、貿易拡大などを目的とする地域ベースの経済協力体制が進展しつつある。中南米における LAFTA(ラテン・アメリカ自由貿易地域)、中米共同市場、アフリカにおける関税同盟などでは、それぞれ域内貿易障壁の除去、労働・資本の移動自由化、各国間の政策調整、多角的決済機構などを通じて急速な経済発展を指向しつつある。

アジア、大洋州を包含するエカフェ(国連アジア極東経済委員会)でも、こうした世界経済の潮流に応じ、政治、宗教、人種の対立を克服して、地域協力の実効をあげるため、地道な努力を重ねてきた。その一部は、メコン河開発計画の進捗、アジア開発銀行の設立などに結実しているが、最近では、貿易の伸長を通じて域内の経済成長を図

るため、対先進国貿易を拡大すると同時に、域内の貿易拡大についてもその具体策を目下鋭意検討している。

このように、エカフェ地域において域内貿易を拡大しようとする意欲が高まっている事情にかんがみ、本稿ではエカフェ域内の貿易の現状を商品別、地域別に分析してその特色を明らかにし、相互貿易を阻害している問題点をさぐり、貿易拡大の可能性を検討しようとするものである。

なお、ここでエカフェ地域とは次の諸国をさす。

域内先進国——日本、豪州、ニュージーランド
 域内低開発国——韓国、台湾、香港、南ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ビルマ、マレーシア、シンガポール、ブルネイ、インドネシア、フィリピン、ネパール、インド、パキスタン、セイロン、アフガニスタン、イラン、モンゴル、西サモア、フィジー

(注) 本稿の貿易統計は、エカフェ諸国間の相互取引を把握するため、エカフェ事務局作成の“Foreign Trade Statistics of Asia and Far East”を基礎とし、国連本部、OECD、IMFなどの統計によって補足修正したうえ、輸出入とも fob 建に統一したものである。

II エカフェ諸国の貿易動向

エカフェ地域内部における貿易構造を検討するまえに、エカフェ諸国全体の貿易動向を米国、EEC、中南米諸国など他の地域と比較しながら概観しておこう。

エカフェ諸国の輸出総額は、1966年で249億ドルに達し、1962年に比べ5割方(年率10.7%)の増加を示した(第1表参照)。この伸び率は、世界貿易全体の伸び(9.5%)を上回るのみならず、米国(8.8%)、EFTA(8.2%)をもしのぎ、EEC(11.1%)に比肩する高さであり、この結果、世界貿易全体に占めるシェアは、11.7%から12.2%に

上昇した。しかしながら、このようなエカフェ諸国の輸出好伸は、主として日本の輸出著伸(18.7%)に基づくものであって、日本、豪州、ニュージーランドの域内先進国を除いたエカフェ低開発国をとりあげてみれば、その伸び率はわずかに6.5%にとどまり、シェアも6.0%から5.4%に低下している。

一方、この間(1962~66年)におけるエカフェ諸国の輸入は、年率10.6%の増加を示し、世界貿易全体の伸び(9.5%)を上回った。しかも、このうちエカフェ低開発国の輸入は、輸出の不振とは対照的に、年率8.9%の増高を示し、中南米、アフリカなど他の低開発地域を大幅に上回り、先進国並みの増加となった。

このため、域内低開発国の貿易収支は30億ドルの大幅赤字(域内先進国は20億ドルの黒字)を余儀なくされている。

このように、エカフェ諸国の貿易動向は、先進国と低開発国とはかなり様相を異にし、低開発国では、貿易収支の悪化、とくに輸出の伸び悩みが経済成長を阻害する要因となっているところか

ら、この是正策として域内貿易の拡大に熱意を寄せているのである。

Ⅲ エカフェ域内の貿易構造

1. 域内貿易の現状

(域内貿易依存度)

1966年におけるエカフェ諸国の域内貿易額は85億ドルに及び、総輸出額に対する比率は34%に達した。この中には、香港、シンガポールの中継貿易、あるいはラオス、ネパール、アフガニスタンなど内陸国に対する近隣諸国の再輸出分などが含まれているが、それらの事情を考慮してもなおかつ、他の地域に比べて高率の依存度である。すなわち、エカフェの域内貿易比率は、近年経済交流が著しく進んでいるEEC(44%)には及ばないにしても、地域経済機構を結成しているEFTA(23%)、LAFTA(9%)、中米共同市場(9%)をはるかに上回っている(第2表参照)。

しかしながら、最近数年間の推移をながめてみると、上記の地域経済機構では、域内貿易障害の除去、域外共通関税の設定、資本移動の自由化な

(第1表)

世界貿易の推移

(単位・百万ドル)

	輸 出					輸 入				
	1962年	構成比	1966年	構成比	1962~66年 年増加率	1962年	構成比	1966年	構成比	1962~66年 年増加率
世界合計	141,410	100%	203,590	100%	9.5%	141,410	100%	203,590	100%	9.5%
エカフェ諸国	16,525	11.7	24,852	12.2	10.7	17,289	12.3	25,899	12.7	10.6
先進国	8,035	5.7	13,915	6.8	14.7	7,299	5.2	11,857	5.8	12.9
低開発国	8,490	6.0	10,936	5.4	6.5	9,990	7.1	14,042	6.9	8.9
米 国	21,359	15.1	29,899	14.7	8.8	15,624	11.0	24,429	12.0	11.8
E E C	34,250	24.2	52,634	25.9	11.3	33,363	23.6	50,670	24.9	11.0
E F T A	20,789	14.7	28,539	14.0	8.2	25,030	17.7	33,935	16.7	7.9
中 南 米	8,640	6.1	11,040	5.4	6.3	8,100	5.7	9,720	4.8	4.7
ア フ リ カ (南アを除く)	5,120	3.6	7,590	3.7	10.3	5,690	4.0	7,140	3.5	5.8
そ の 他	34,727	24.6	48,896	24.1	9.0	36,314	25.7	51,657	25.4	9.2

(第2表)

輸出総額に占める域内向け輸出の比率

	1962年	1966年
	%	%
エカフェ地域 (域内低開発国)	34 (26)	34 (23)
E E C	39	44
E F T A	19	23
L A F T A	7	9
中米共同市場	3	9

ど、域内取引拡大策を積極的に講じていることもあって、域内貿易のウエイトは急速に高まっているのに対して、エカフェ地域における域内貿易の比率は、1962年においてすでにE E C (39%)に近い34%に達しているにもかかわらず、その後域内依存の度合いはいっこうに進展をみていない。しかも、このうちエカフェ低開発国の域内輸出比率をみると、むしろ26%(1962年)から23%(1966年)に低下している点注目を要する。

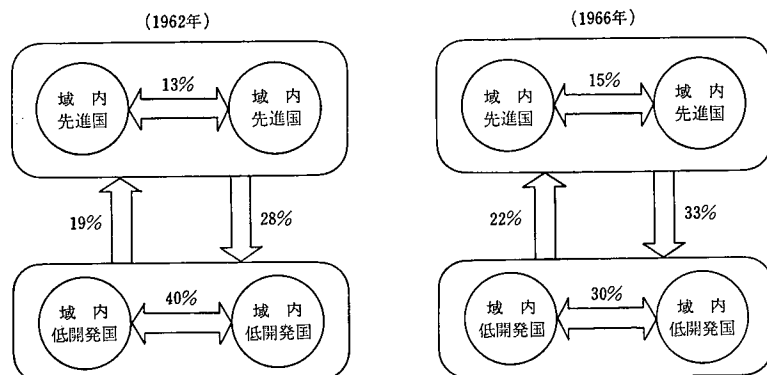
(域内貿易構造)

一方、域内貿易の流れを地域別にみると、その取引は特定地域に著しく偏倚、集中しており、全体として域内貿易依存度が高いにもかかわらず、特定地域を除くかなり広い地域が相互依存関係、補完関係に乏しい実情にある。

すなわち、域内貿易(1966年)を大別すると、域

〔第1図〕

域内貿易の流れ



(注) 数字は域内貿易総額に占める比率。

内先進国間の取引が全体の15%、また域内先進国と域内低開発国間の取引が55%を占めている(第1図参照)。前者の取引は、日本の豪州、ニュージーランドに対する工業製品輸出、農産・鉱物原料輸入が主体である事情を考慮すると、域内貿易の大宗は、先進国(とくに日本)を軸とする垂直貿易中心に進められているものといえよう。一方、エカフェ地域の大多数を占める低開発諸国間の取引は、全体の30%にとどまり、しかもその比率は1962年(40%)に比べ大幅に減退している。

これは、後述するように、①低開発国の輸出は、全体としてみると、なお伝統的一次産品に依存するところが大きいため、相互補完性に乏しいこと、②最近、一部低開発国で発展をみつつある軽工業品などの貿易については、自国産業保護の見地から、相互に輸入障壁を高める傾向が顕著であること、などに基因している。

さらに、これを国別にみれば、域内依存関係の濃淡はきわめて区々で、域内貿易構造の異質性はいっそう明瞭となろう(第3表参照)。総じてみれば、①タイ、ビルマ、マレーシア、シンガポールなどの東南アジア諸国は、米穀ならびに中継貿易を中心に、また②韓国、台湾、香港の北東アジア諸国は対日貿易を主体に、国により多少の相違は

あるものの、おおむね4~5割近い域内貿易比率を示しているのに対して、③インド、パキスタン、セイロンなどの西南アジア諸国は域内依存のウエイトが低く、むしろ域外先進国との関係が密接である。

このように、国によって依存関係が違う理由として次の諸事情があげられよう。①エカフェ地域が地理的にきわめ

て広範に及んでいるため、域内諸国間の地縁結合関係が多岐にわたっている。たとえば、前述の内陸国や中継貿易国の存在、あるいは後述するように、エカフェ域内では ASEAN(東南アジア諸国連合——タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン)、RCD(イラン、パキスタン、トルコ3か国による協力機構)、豪州・ニュージーランド自由貿易地域などにみられるような小地域ベース(sub-regional)の結合関係が近年緊密化する傾向にある。③各国の輸出商品の特性によって域内依存の度合いがかなり相違している。東南アジア諸国の主要産物である米穀が主として域内向け商品であるのに対して、インド、セイロンの茶の大部分が欧米諸国に輸出されているのはその好例であろう。③エカフェ域内取引きで

(第3表)

エカフェ諸国の域内貿易と収支じり

		貿易総額 (1966年)の うち		域内貿易収支じり		
		域内 輸出	域内 輸入	1962年	1964年	1966年
		%	%	百万ドル	百万ドル	百万ドル
先進 国	日本	28.9	28.1	331	129	569
	豪州	36.4	20.9	337	436	527
	ニュージーランド	15.4	32.6	148 [△]	178 [△]	160
東南 アジア	タイ	66.0	53.6	34	58	2
	マレーシア	53.0	58.7 [△]	130 [△]	119 [△]	6
	シンガポール	65.0	68.3	32 [△]	6 [△]	69
	インドネシア	41.7	46.4 [△]	13	2	70
	フィリピン	38.0	42.9 [△]	19 [△]	98 [△]	86
	ビルマ	56.1	51.5	56	34	28
	カンボジア	36.7	28.2 [△]	17	1	0
北東 アジア	ラオス	35.0	53.1 [△]	8 [△]	11 [△]	20
	南ベトナム	29.2	46.9 [△]	101 [△]	117 [△]	374
	台湾	59.7	55.0 [△]	17	96 [△]	19
東南 アジア	韓国	41.4	56.1 [△]	142 [△]	70 [△]	302
	香港	29.8	31.5 [△]	140 [△]	248 [△]	237
	インド	18.6	14.9 [△]	114 [△]	93 [△]	103
西南 アジア	パキスタン	24.6	21.6 [△]	49 [△]	42 [△]	45
	セイロン	15.1	37.6 [△]	79 [△]	89 [△]	89
	アフガニスタン	21.0	28.7 [△]	13 [△]	11 [△]	23
	イラン	35.6	13.8	200	326	337

は、華僑、印僑(インド商人)、アラブ商人がそれぞれの地盤で活躍し、異質の経済圏を形成している。さらに④エカフェ諸国と域外先進国との特殊関係、たとえば英国とスターリング諸国、米国とフィリピンなど旧宗主国との特惠関係、あるいは米国の食糧援助、わが国の円借款などの先進国援助が、エカフェの域内貿易構造を規定する大きな要因となっていることはいうまでもない。

(域内貿易収支)

さらに、域内貿易の相互補完関係の度合いを貿易収支の面からながめてみよう。

域内各国の域内貿易収支をみると、恒常的出超国と恒常的入超国にはっきり大別される(第3表参照)。しかも、恒常的出超国は、日本、豪州、ビルマ、タイ、インドネシア、イランの諸国であるが、そのうちインドネシア、イランの輸出には外国資本の支配下にある石油積出しが含まれていることを考慮すれば、実質的にはわずか4か国に限定される。これに対して、カンボジア、台湾など一部の例外を除けば、大部分の国が恒常的入超に陥っており、しかも入超幅は年々拡大の傾向(1962年9.9億ドル、64年10.8億ドル、66年15.3億ドル)をたどっている。

このような入超国の入超合計額(=出超国の出超合計額)の域内総輸出額(=域内総輸入額)に対する比率は、1966年は18%に達している。ちなみに、他の地域経済機構をみれば、上記比率は、EECが4%、EFTAが6%ときわめて低率で、相互補完性に富んでいることがうかがわれる反面、中米共同市場(16%)、LAFTA(24%)は、エカフェ地域並みにとどまっている。

以上のようなエカフェ域内貿易の特徴は、全体的にみた域内貿易依存度の高さにもかかわらず、域内の貿易を拡大していくには種々の問題が含まれていることを示しているものといえよう。この間の事情を、以下、エカフェ域内の商品貿易構造

および地域貿易構造に分けて、さらに詳細にみていくこととしよう。

2. 域内貿易の商品構造

(エカフェ地域貿易の商品構造)

まず、エカフェ地域貿易の商品構造(1964年)を概観してみよう。

エカフェ地域の対世界貿易の商品構成をみると輸出入ともに工業製品がほぼ2分の1を占め、次いで原燃料、食飲料の順となっている。しかしながら、これは日本の工業製品輸出が多額にのぼるためであって、日本、豪州、ニュージーランドの先進国を除いた低開発国についてみると、輸出では、原燃料が過半を占めて工業製品の比率が低下する一方、輸入では、工業製品の比率が6割に上昇して原燃料の比率が低下するなど、かなり様相を異にしている。

次に、エカフェ域内貿易の商品構成をみると、対世界貿易とほぼ同様工業製品が4割を占め、残

余を原燃料、食飲料で2分しているのに対し、低開発国相互間の商品構成では、工業製品の比率が最低となり、食飲料の比率が上昇する。また、先進国と低開発国間の貿易商品構成では、低開発国の輸出中原燃料が7割を占め、低開発国の輸入中工業製品が8割を占めている。

(域内低開発国を中心とする商品別、地域別貿易構造)

ここでは、やや観点をかえて、域内低開発国を中心として、商品別に低開発国間、対域内先進国(日本、豪州、ニュージーランド)、対域外の貿易を1964年の計数につき分析し、各仕向け地別の偏倚の状況ならびにその背景を個々に検討することとしよう(第8表参照)。

(1) 食 飲 料

域内低開発国の食飲料輸出は2,470百万ドルで、その7割を域内先進国(13%)および域外(59%)へ輸出している。その理由は、低開発国の主要輸出品のうち茶(インド、セイロン)、砂糖(フィリ

ピン、台湾、インド)、果実(台湾、フィリピン)などの嗜好品、食品原料がかなりの部分を占めているため、米国、英国、日本など消費水準の高い先進国向けに輸出されていること、また先進国が買付枠の保証や特恵の供与(米国—砂糖、英国—茶)など特殊な関係を結んでいることによるものである。

なお、域内先進国向けには、砂糖、とうもろこし、果実等317百万ドルが輸出されているが、嗜好品の大宗をなす茶および他の大口輸出品である米の輸出が少ないため、輸出比率は比較的到低く、域

(第4表)

エカフェ地域の対世界貿易の商品構成(1964年)

(単位・百万ドル、カッコ内は構成比・%)

	食 飲 料	原 燃 料	工 業 製 品	計 (特殊品を含む)
エカフェの対世界輸出	4,536(22)	6,654(33)	9,144(45)	20,496(100)
うち、エカフェ低開発国	2,470(25)	4,597(47)	2,585(27)	9,714(100)
エカフェの対世界輸入	3,925(18)	6,285(28)	11,765(53)	22,281(100)
うち、エカフェ低開発国	2,448(20)	1,918(16)	7,370(62)	11,973(100)

(第5表)

エカフェ域内貿易の商品構成(1964年)

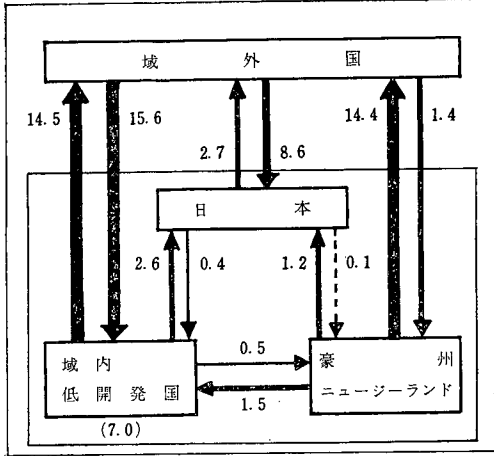
(単位・百万ドル)

	食 飲 料		原 燃 料		工 業 製 品		計	
	構成比 (%)		構成比 (%)		構成比 (%)	特殊品を含む (%)	構成比 (%)	
エカフェ域内国相互間	1,366	20	2,508	37	2,903	42	6,850	100
うち低開発国相互間	700	31	856	38	657	29	2,247	100
〃先進国相互間	162	15	478	44	437	40	1,088	100
〃低開発国の先進国向け輸出	317	21	1,049	68	165	11	1,538	100
〃低開発国の先進国からの輸入	187	9	125	6	1,644	83	1,977	100

〔第2図〕

エカフェ域内諸国の食飲料貿易

(1964年, fob 単位・億ドル)



内の貿易均衡にはあまり寄与していない。

一方、輸入(2,448百万ドル)についても、その7割を域外(64%)中心に域内低開発国以外から買いつけている。主要品目は、小麦、小麦粉、酪農品で、主要輸入国は、①近年における食糧生産の停滞と人口増加を主因に食糧不足に悩んでいる諸国(インド、パキスタン、マレーシア、インドネシア)、②経済構造上、食糧自給の困難な諸国(香港、シンガポール)である。

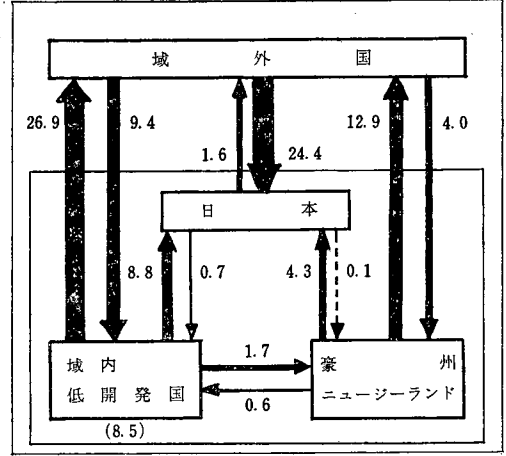
域内低開発国の多くが農業国であるにもかかわらず、域外からの食飲料輸入比率が高い背景には、低開発国の食飲料生産が植民地時代から商品作物に特化し、食糧を輸入する型となっていることのほか、米国の援助政策に基づく余剰農産物の輸入(インド、韓国)が多いことがあげられる。

これに対して、域内低開発国間の食飲料取引(700百万ドル)は、食飲料輸出入額の3割に達している。この取引は主としてタイ、ビルマ、カンボジアの米穀(44%)、台湾、インドの砂糖(13%)の2品目によって占められ、マレーシア、香港、シンガポール、インドネシア、セイロンなどの食糧輸入国へ供給されている。そのほか、野菜、果実、とうもろこし、魚介類、香辛料等の取

〔第3図〕

エカフェ域内諸国の原燃料貿易

(1964年, fob 単位・億ドル)



引きも若干みられる。

(2) 原 燃 料

域内低開発国の原燃料輸出は、4,597百万ドルに達し、その8割が先進国に輸出されている。一方、輸入は1,918百万ドルにとどまり、そのうち45%が域内低開発国間の取引である。

イ. 原 材 料

(域内先進国および域外向けに約9割を輸出)

原材料の輸出額(2,885百万ドル)の約9割は、域内先進国(22%)および域外(64%)に輸出され、他の商品に比べ低開発国以外へ輸出される比率が圧倒的に高い。その主要産品は、世界供給量の大宗を占めるゴム(マレーシア、インドネシア、タイ、セイロン)を筆頭に、油脂原料としてのコブラ(フィリピン、インドネシア)、合板材のラワン(フィリピン、マレーシア)、繊維原料の綿花、ジュート(インド、パキスタン、イラン)等の農林産品が主体を占め、このほか鉄鉱石(インド、マレーシア)、非鉄金属鉱石(フィリピン、マレーシア)も目だっている。

域外諸国向け輸出の比率はかなり高いが、これは、ゴム、コブラ、ジュート等はエカフェ諸国が世界輸出の大部分を占める商品であることのほ

か、コブラ、ジュート等については、欧州諸国の需要(コブラー油脂工業、ジュートー包装用など)によく適合していること、コブラなど一部については旧宗主国との特惠関税(米国—フィリピン)があり、ゴムでは欧米先進国などのほか、合成ゴム工業の発達していない共産圏諸国の買付けも多いことなどがあげられよう。

また、域内先進国向け原材料輸出の比率は石油に次いで高いが、これは、わが国による鉄鉱石、銅鉱石、木材等の輸入が活発に行なわれていることが寄与している。

一方、原材料輸入額(1,097百万ドル)の6割は域内先進国(9%)および域外(55%)に依存しており、主要商品は、綿花、羊毛、合成繊維糸等の繊維原料で、近年繊維工業の発達をみている台湾、韓国、香港などに輸入されている。原材料主要供給国である低開発国において原材料の域外からの流入がかなりみられるのは、綿花の輸入が、米国の援助の一環として米綿委託加工の形で行なわれていることも一因をなしている。

(域内低開発国間の取引はゴムの中継取引中心)

域内低開発国間の原材料取引は395百万ドルにすぎない。しかも、そのうちゴム(41%)、木材(16%)、綿花(12%)の3品目で全体の7割を占めているが、ゴム取引の7割がシンガポールの中継貿易(主として先進国向け再輸出)であることを考慮すれば、域内取引の実額はさらに低くなる。

ロ. 燃 料

域内低開発国の燃料輸出(1,712百万ドル)の大宗は、イラン、インドネシア、マレーシア、ブルネイ(マレーシア・サラワク経由輸出)の石油で、その約7割が域内先進国(24%)および域外(49%)に輸出されているが、地理的關係もあり、日本、豪州向けが比較的多く、域内低開発国の域内先進国向け輸出比率は各商品中最も高い。一方、燃料の輸入は821百万ドルにのぼるが、低開発国以外

からの輸入の比率は44%と他商品に比べ低い。

一方、域内低開発国間の燃料取引(461百万ドル)は、域内取引の21%と食料に次ぐ重要な地位を占めている。その大半は石油製品であるが、多くの国が石油精製設備の建設に乗り出しており、経済発展に伴うエネルギー需要の増大とあいまって、今後原油輸入の比重はますます高まるものと思われる。

(3) 工業製品

域内低開発国の工業製品の輸出2,585百万ドルのうち6割が加工品で、域外に対する輸出比率は8割と最も高い。これに対して、輸入は7,370百万ドルの巨額にのぼり、とくに機械(主として資本財)の比重が高く、約9割を域内先進国および域外から輸入している。

イ、加 工 品

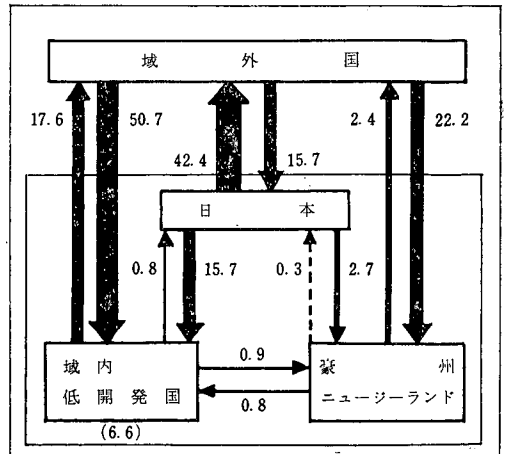
加工品(一次加工軽工業品および鉄鋼金属品)の輸出額(1,625百万ドル)の78%が、低開発国以外に輸出され、とくに、米国をはじめ英国、EECなど先進国中心に域外市場(69%)に供給されている。

その内容は、香港、台湾、韓国、インドなど先発低開発国の繊維製品(綿織物、ジュート織物)、

[第4図]

エカフェ域内諸国の工業製品貿易

(1964年, fob 単位・億ドル)



金属加工品、木製品、皮革等、近年工業化の進展をみている労働集約的な軽工業品である。域外先進国向け輸出比率が高いのに対し、域内先進国向けの比率は9%にとどまり、内訳では日本向けよりも、豪州、ニュージーランド向け(繊維)のほうが若干多い。この点は、中小企業の多いわが国産業の二重構造を反映したものといえよう。

一方、輸入(2,715百万ドル)の87%が、日本中心の域内先進国(30%)、米国、英国など域外(57%)からの買付けであるが、とくに、対日輸入は金属品(主として鉄鋼)、繊維品(化合繊、綿製品)を中心に29%を占めている。

このように、加工品の場合でも、輸出入とも先進国に依存しており、域内低開発国間の取引はきわめて少額(361百万ドル)にとどまっている。これは、各国とも輸入代替、輸出促進の見地から同種の産業を中心に工業化を進める傾向があり、①商品が競合するうえ、②国内産業保護の見地から輸入抑制措置を講じている、などによるものである。したがって、輸出は先進国市場に指向しており、この傾向は1970年をめどとして実施される低開発国の製品、半製品に対する一方的特惠によりますます高まるものと思われる。

ロ、機 械

機械については、輸出は184百万ドルにすぎない反面、輸入は3,177百万ドルに達しており、しかもそのほとんどを先進国に依存(域内先進国から18%、域外から78%)しているため、域内低開発国間の取引は微々たるものにすぎない。

輸入は、各国の開発プロジェクトに基づいた産業機械、電気機械、輸送用機械等が大宗を占め、米国、E E C、日本など先進工業国に買付け先が集中している。とくに、機械輸入の場合、①政府援助、民間借款などに結びついたケースが大部分を占めていること、②先進国との特惠関係、商品の技術水準、納入後のアフター・サービスなどの

要因に左右される点が他の商品取引と異なる点であろう。

ハ、化 学 品

化学工業は、各国が輸入代替産業として育成に力を入れている産業の一つであるが、いまだ輸出産業に転化する段階には達していないため、輸出額は122百万ドルにとどまり、また域内低開発国間の取引も微額(75百万ドル)にすぎない。

一方、輸入も966百万ドルと工業品のうちではさほど多くはなく、その9割方を域内先進国(18%)および域外(74%)から、化学肥料をはじめ、医薬品、化学薬品を買い付けている。

もっとも、域内低開発国は基本的に農業国であるうえ、近年各国とも農業重視政策を打ち出しているため、域内の肥料需要は相当高まるものと思われる。化学工業は、装置産業として巨額の資本投下を要する産業であるため、最近韓国、台湾の間で分業の話合いが進んでいるように、域内諸国間の産業調整によって相互補完性を高めうる商品として期待されているものの一つである。

ニ、雑 貨

雑貨については、低賃金と中小企業経営の利点を発揮して、輸出654百万ドル、輸入512百万ドルと、若干ながらも出超を示している。輸出国は香港、シンガポール、インド、台湾などほとんどが先発低開発国であり、主要品目は、衣類(約5割)のほか、光熱器具、玩具、運動具、造花等各種の手工業製品である。とくに、域外向け輸出は、米国、英国、E E Cなど各方面にわたっているのに対し、域内先進国向けはわずか2%にすぎない。

一方、輸入は高級衣類、印刷物、時計、写真材料等高度の技術水準を要する品目を、主として域内外先進工業国から約8割を買い付けている。

低開発国の工業生産に占める雑貨のウェイトが高いにもかかわらず、域内低開発国間の貿易額は

92百万ドル(低開発国間貿易の4%)ときわめて少ない。

3. 域内小地域間の貿易の特色

これまででは主として域内低開発国を中心とした商品別取引構造について述べてきたが、エカフェ地域には、社会的・政治的背景や経済発展段階を異にする多数の国が混在している。このため、エカフェ諸国の間で小地域ベースで結合する傾向がみられるので、ここでは下記に分類した小地域間の取引関係をみることにより、域内貿易の特色を浮彫りすることとしよう。

東南アジア地域

① ASEAN諸国(タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インドネシア)

② 南ベトナム、ラオス、カンボジア、ビルマ

北東アジア地域 韓国、台湾、香港

西南アジア地域 インド、パキスタン、セイロン、ネパール、イラン、アフガニスタン

大洋州地域 豪州、ニュージーランド

(東南アジア地域)

同地域の輸出総額に占めるエカフェ域内向け輸出の割合は、1966年において53%、また輸入では54%に達している(第7表参照)。これは、他地域(域内向けの割合、20~40%)に比べ、同地域の域内貿易依存関係がきわめて高いことを示すものである。

また、同地域のエカフェ域内取引のうち、ASEAN諸国間の取引ならびに対日貿易が大宗(それぞれ4割弱)を占めていることも、大きな特徴点である(第7表参照)。前者が米穀、繊維品、雑貨、セメント等のほか、シンガポールの中継貿易を主体に発展しているのに対し、後者、すなわち対日貿易は、鉄鉱石、すず、銅、木材、ゴム、とうもろこし等の輸出、工業製品の輸入を主体に、近年そのシェアが急増している(対日輸出

の割合、1962年11%→66年18%、対日輸入同15→20%)。

一方、同じ東南アジア地域においても、南ベトナム、カンボジア、ラオス、ビルマの4か国間の取引は、主要輸出商品(米穀)が競合するため少額にとどまっている。

(北東アジア地域)

同地域に属する韓国、香港、台湾は、他のアジア諸国に比べ急速な経済発展を遂げ、エカフェ地域では、どちらかといえば中進国的存在である。したがって、輸出品は食料のほか、繊維品、雑貨、合板など軽工業品のウエイトが大きく、市場も世界全域に分散しているのが特徴である。一方輸入は、機械、鉄鋼等重工業製品を中心に、その買付け先は日本、米国(両者で輸入総額の5割)のウエイトが高い。

また、域内取引(域内取引の比率、1966年輸出39%、輸入41%)では、3国の中進国的性格ならびに香港の中継貿易を映じて、日本(食料、雑貨)および東南アジア地域(工業製品)との取引が密接である。反面、3国間の取引は、工業化の進展に伴う競合関係の激化から、魚介類、砂糖、繊維等少額にとどまっている。

(西南アジア地域)

同地域の輸出総額に占める域内向け輸出の割合は25%、また輸入では18%と、他地域に比べ最も低い。とくに、日本、豪州、ニュージーランドを除いた域内低開発国に対する貿易の比率は、輸出11%、輸入8%と、他の域内低開発国との相互依存関係はきわめて低い。

これは、①同地域が地理的に欧州、ソ連、東欧に接近していることのほか、②主要産物である茶(インド、セイロン)、綿花(パキスタン、アフガニスタン)、ジュート(パキスタン)、石油(イラン)の需要先が、主として欧米および共産圏であること、などによるものである。

なお、同地域の対日輸出の比率(総輸出に対し、1962年5%→66年11%)が上昇しているのは、イランの石油輸出が急増しているからである。

(大洋州地域)

同地域の貿易は、農業先進国としての性格を映じて、先進国との関係が深い。したがって、域内貿易の割合(輸出31%、輸入24%)は低く、しかもその大半が、日本との取引(輸出—酪農品・羊毛・鉄鉱石、輸入—機械・自動車・繊維品)で占められている。

4. 域内貿易収支と補完性

以上、域内貿易の相互依存関係を、輸出入それぞれの面から検討してきたが、さらに貿易収支のバランスの面からもみる必要がある。すなわち、域内貿易において、相互間の輸出入ギャップが大きく、かつ、特定国に一方的出超または入超傾向があるとすれば、長期的にみて域内貿易の拡大は期しがたい。現在、エカフェの指向する域内貿易の拡大も、貿易収支のバランスを図りつつ、輸出入の増大をねらっているものである。

こうした観点から、特定諸国間の貿易取引において、バランスしない部分、すなわち各国の入(出)超の割合を片貿易比率(注)と呼び、貿易の相互補完性の度合いをみる尺度としよう。

(注) 片貿易比率(第6表(注))

1. 参照は、特定グループ構成国相互間の貿易取引の不均衡の度合いを示す指標である。かりに、グループ構成国が一方的な輸出国と一方的な輸入

国とに分かれ、財貨の相互交流がない場合には、グループ構成国の出(入)超額合計と輸出(入)額合計とはまったく等しくなり、片貿易比率は100%となる。これと反対に、グループ構成国のいずれもがグループ内の貿易取引について収支が均衡している場合(特定2か国の貿易取引が不均衡であっても、グループ構成国相互間の多角的貿易取引において均衡している場合には、片貿易比率は0%となる。したがって、片貿易比率が低いほどグループ内貿易取引は多角的にかつバランスして行なわれていることになる。グループ内貿易の総輸出(入)額に占める比率(域内貿易比率)が高く、かつ片貿易比率が低ければ、グループの貿易商品構造は相互補完性が高いことになる。逆に域内貿易比率が低い、片貿易比率が高いか、あるいはその両方の構造を有するグループの貿易商品構造は、相互補完性が低いこととなる。

エカフェ地域全体の片貿易比率は18%(1966年)で、先進国主体のEEC(4%)、EFTA(6%)に比べ、かなりの高率(すなわち相互補完性に乏

(第6表)

エカフェ域内小地域別の片貿易比率および域内貿易の割合

(単位:%)

グループ名	片貿易比率		域内貿易比率			
			輸出		輸入	
	1962年	1966年	1962年	1966年	1962年	1966年
東南アジア (ASEAN) (ラオス、カンボジア、南ベトナム、ビルマ)	25 (24)	25 (17)	29 (29)	24 (21)	28 (30)	20 (21)
北東アジア (インド、パキスタン、セイロン)	35 (18)	33 (48)	5 (5)	4 (2)	3 (4)	3 (1)
大洋州	66	62	5	6	6	6
A S E A N および 日本	6	7	9	9	10	11
A S E A N、北東アジアおよび日本	15	18	31	28	30	28
大洋州および日本	48	34	9	9	10	11
エカフェ低開発地域	24	26	26	23	22	18
エカフェ域内全域	18	18	34	35	32	33
E E C	8'(58)	4	24'(58)	44	(注)	左記市場のカッコ内は各グループにおける市場結成直前の年次に相当
E F T A	9'(60)	6	19'(60)	23		
中米共同市場	33'(60)	16	3'(60)	9		
L A F T A	★	24	7'(62)	6		

(注) 1. 片貿易比率 = $\frac{\text{グループ構成国の対グループ取引の出超額(=入超額)合計}}{\text{グループ構成国間の取引合計額(輸出額=輸入額)}}$
 2. 域内貿易比率 = $\frac{\text{グループ構成国に対する輸出額(=輸入額)合計}}{\text{グループ構成国の輸出総額(または輸入総額)}}$

しい)であることは前述したとおりであるが、さらにこれを小地域別にみてみよう(第6表参照)。

東南アジア地域の片貿易比率は25%と、エカフェ地域以外の小地域に比べ最も低い。これは同地域の貿易額のうち域内向けが輸出入とも5割強(前述)を示していることとあわせて、同地域の域内取引はきわめて活発で、しかも各国間の相互補完性に富んでいることを物語っている。しかしながら、これを細分してみると、南ベトナム、ラオス、カンボジア、ビルマのグループは、ベトナム戦争の激化に伴う南ベトナムの輸入急増を主因に、1962年の10%から66年には60%に急上昇している反面、ASEAN諸国では、その比率が24%から17%に低下している点は好対照をなしている。

次に、ASEAN諸国と取引関係の深い、日本あるいは北東アジア諸国を結合した貿易圏の相互補完性をみてみると、日本を含めた片貿易比率は7%に低下し、さらに北東アジアを含めても18%の低率である点注目される。

一方、東南アジア地域以外の片貿易比率をみると、西南アジアの29%、北東アジアの33%、大洋州の62%とかなり高く、しかもこれら小地域では、小地域内の相互取引がきわめて少ない(それぞれ全貿易量の1割以下)状況にあるので、相互関係はきわめて希薄といえよう。また、他地域と結びつけた貿易圏の片貿易比率をみても、さほど低下をみない。

以上のごとく、エカフェ域内取引は、対日依存関係が深いことと、ASEAN諸国の相互補完性が目だつものの、その他広範な地域については総じて相互依存の度合いに乏しく、しかも片貿易の収支構造をかかえているのが実体である。

IV 問題点と今後の展望

1. 問題点

エカフェ諸国は、域内貿易の拡大に強い関心を寄せてはいるものの、以上みてきたように、その実体には多くの問題があり、貿易拡大には各国の相当の努力と各国間の政策調整を必要としよう。

すなわち、まず第1に、域内低開発国の商品構造が相互補完性に乏しいことはすでに指摘したとおりである。域内低開発国の輸出の大宗を占める一次産品は、米穀等一部の例外を除き、ほとんどが先進国指向型商品である。また、最近輸入代替の見地から育成強化が図られている工業製品についても、各国が繊維品、セメント、肥料、雑貨等同種の製品に生産を集中しており、今後工業化が進展しても、このままでは相互補完性を高めることは期待できない。したがって、域内貿易の拡大を図るには、各国の産業を相互調整することが肝要となろう。各国間の産業調整は、貿易特化による取引拡大の利益と規模の経済の利益を享受し、地域経済発展の重要なモメントとなることはいうまでもない。

第2は、エカフェ低開発国の中には、国際収支の構造的ぜい弱性のみならず、国内産業の保護、あるいは財政収入の確保などの見地から、輸入制限や高率関税を課するなど輸入障壁を高めている国がある点である。域内貿易拡大のためには、域内諸国の貿易自由化がその前提となろう。しかしながらこの場合、香港、台湾、韓国などの先発低開発国が、近年軽工業品を主体に国際競争力をつけてきており、他の後発低開発国に比べ比較的有利な立場に立っているため、域内貿易の拡大策に関する検討が進むにつれ、低開発国間の「南北問題」が発生する懸念も十分予想される。したがって、域内貿易の拡大を図るには、経済発展段階の異なる各国間の貿易政策を調整することが課題となる

う。

第3に、域内低開発国における運輸、保険、金融など貿易外ファシリティの不備が域内貿易の拡大をはばんでいる点である。低開発国が、港湾の建設、自国船の保有量増大、運賃の合理化、航路の調整、あるいはアジア・ハイウェイをはじめとする内陸道路の整備を緊要課題として、実現に熱意を示しているのもこのためである。

2. 今後の展望

近年、エカフェ地域をとりまく国際環境はきわめて流動的で、その動向は予測しがたいところであるが、総じてみれば、米国の対アジア政策が、ベトナム戦争終結を契機に保守的色彩を濃くすることが予想されるうえに、3世紀にわたったアジアにおける英国勢力も、スエズ以東の軍隊撤退などから、その退潮は決定的となり、さらには中共のアジア浸透策も一頓挫をみているなど、エカフェ地域に対する大国の影響力は最近とみに低下をみている。

こうした情勢から、エカフェ諸国は、従来一部の国にみられた政治優先の姿勢から経済重視の立

場に変わり、自らの手による着実な発展と、近隣諸国との連携強化の必要性に対する認識を深めつつある。

この間、エカフェでは、こうした各国の意欲を背景に、他地域より遅れている地域協力を推進する動きを漸次高めている点が注目される。すなわち、地域協力の成果は、すでにアジア開発銀行の設立(1966年12月)として結実しているが、次いでその第2目標を域内貿易の拡大におき、目下その実現に努力を傾注している。これは、最近の南北問題における「援助より貿易を」の潮流を背景に、域内においても自助の努力と各国の協調のもとに、貿易拡大を図ろうとするものである。現在、エカフェでは、昨年8月の「貿易拡大の金融面に関するセミナー」の勧告に基づき、域内商品構造の分析と、現行の貿易金融ファシリティの両面から検討を加えている。こうしたことから、当面の目標が域内貿易の自由化ならびに多角決済機構の具体策にしばられる可能性が強く、しかも、域内低開発国はこれに相当の熱意を傾注しているだけに、今後の進展が注目される。

(第7表)

エカフェ諸国の貿易

輸 入 国 輸 出 国		エカフェ域内						
		ASEAN ① (タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インドネシア)	② ラオス、カンボジア、南ベトナム、ビルマ	③ 韓 国 香 台 港 灣	④ ①～③計	⑤ ④ インド、パキスタン、セイロン ⑤ イラン、アフガニスタン	域内低開発国 ①～⑤計	
エ カ フ ェ 域 内 諸 国	ASEAN ① (タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポール、インドネシア)	1,122 944 977	39 65 138	123 163 197	1,284 1,172 1,312	66 70 131	1,350 1,242 1,443	
	② ラオス、カンボジア、南ベトナム、ビルマ	66 80 42	3 — 1	19 13 9	88 93 52	75 71 69	163 164 121	
	③ 韓 国 香 台 港 灣	155 234 265	42 55 128	54 70 80	252 359 473	15 40 24	267 398 497	
	①～③計	1,343 1,257 1,285	84 120 266	197 246 286	1,624 1,624 1,837	156 181 224	1,780 1,804 2,061	
	④ インド、パキスタン、セイロン	65 102	23 51	24 49	112 202	274 304	386 506	
	⑤ イラン、アフガニスタン	126	32	56	213	201	414	
	域内低開発国 ①～⑤	1,408 1,359 1,411	108 171 298	221 296 342	1,736 1,826 2,050	430 485 425	2,166 2,310 2,475	
	⑥ 豪 州 ニ ュ ー ジ ー ラ ン 島	93 142 178	10 6 10	43 56 74	146 204 262	81 85 104	228 289 366	
	⑦ 日 本	532 699 931	131 102 200	449 539 961	1,112 1,339 2,092	241 349 378	1,353 1,688 2,469	
	域内先進国 ⑥～⑦	624 841 1,110	142 108 210	493 595 1,034	1,259 1,544 2,354	322 433 481	1,581 1,977 2,835	
	エカフェ域内諸国計 ①～⑦	2,032 2,200 2,520	249 279 508	713 891 1,376	2,995 3,369 4,404	752 918 906	3,747 4,287 5,310	
	域 外 諸 国	米 国	539 583 620	126 160 346	457 528 629	1,123 1,271 1,594	1,069 1,480 1,374	2,192 2,758 2,961
		英 国	339 342 368	39 32 42	137 160 190	515 534 600	598 613 591	1,113 1,147 1,192
E E C		374 423 524	91 90 118	142 200 242	606 712 885	602 768 995	1,208 1,480 1,879	
そ の 他		447 521 531	92 101 82	409 591 907	947 1,213 1,519	783 1,054 1,174	1,730 2,267 2,693	
域外諸国計		1,699 1,868 2,042	348 382 588	1,144 1,480 1,969	3,191 3,730 4,598	3,052 3,915 4,134	6,243 7,645 8,732	
輸 入 総 計		3,731 4,067 4,563	597 661 1,096	1,858 2,371 3,344	6,186 7,099 9,002	3,804 4,832 5,040	9,990 11,932 14,042	

(地 域 別 構 成)

(上段—1962年
中段—1964年 単位・百万ドル)
下段—1966年

諸 国				域 外 諸 国					輸 出
豪 州 ⑥ ニュージー ランド	⑦日 本	域内先進国 ⑥ ~ ⑦	エカフェ域 内諸国計 ① ~ ⑦	米 国	英 国	E E C	そ の 他	域 外 諸 国 計	輸 出 総 計
119	468	587	1,936	635	309	425	558	1,927	3,864
142	654	795	2,037	719	218	556	527	2,019	4,056
142	847	989	2,432	770	195	630	566	2,161	4,593
—	16	16	179	8	41	61	87	197	376
—	22	22	186	5	28	64	93	190	376
—	20	20	142	6	17	43	82	147	288
29	118	147	413	224	134	67	202	628	1,041
42	228	270	669	340	188	126	242	896	1,565
49	272	321	818	589	188	196	319	1,291	2,110
148	602	750	2,529	868	484	553	847	2,752	5,281
184	904	1,088	2,892	1,064	434	745	861	3,104	5,996
191	1,140	1,330	3,392	1,365	399	868	966	3,599	6,990
141	170	311	697	354	666	386	1,107	2,512	3,210
140	362	502	1,008	470	713	477	1,263	2,922	3,930
129	440	569	983	501	623	497	1,343	2,964	3,946
289	772	1,061	3,226	1,221	1,150	939	1,954	5,264	8,490
324	1,265	1,590	3,900	1,533	1,147	1,222	2,124	6,027	9,927
320	1,579	1,899	4,374	1,866	1,022	1,365	2,309	6,562	10,936
162	416	577	805	415	843	515	541	2,314	3,119
225	574	599	1,088	429	1,127	625	832	3,013	4,101
235	678	913	1,279	572	933	618	737	2,860	4,139
165		165	1,519	1,411	192	275	1,521	3,398	4,917
281	★	281	1,868	1,866	198	365	2,277	4,705	6,674
357		357	2,826	3,010	226	595	3,119	6,950	9,776
327	416	743	2,323	1,825	1,035	790	2,062	5,712	8,035
505	574	1,080	3,056	2,295	1,325	990	3,109	7,719	10,775
593	678	1,271	4,106	3,582	1,159	1,213	3,856	9,810	13,915
616	1,188	1,803	5,550	3,046	2,185	1,729	4,016	10,976	16,525
830	1,840	2,669	6,956	3,828	2,472	2,212	5,234	13,746	20,702
913	2,257	3,170	8,480	5,447	2,181	2,578	6,165	16,372	24,852
457	1,408	1,866	4,058	★	1,057	3,581	12,644	17,302	21,359
712	1,894	2,606	5,357		1,445	4,482	14,802	20,729	26,086
747	2,312	3,059	6,027		1,645	5,264	16,962	23,872	29,899
944	121	1,066	2,179	916		2,016	5,500	8,432	10,610
1,044	158	1,201	2,348	1,006	★	2,358	6,199	9,563	11,912
1,069	181	1,249	2,441	1,748		2,674	7,256	11,678	14,118
276	304	581	1,789	2,429	1,791	13,440	14,801	32,461	34,250
347	395	742	2,222	2,852	2,279	18,415	16,827	40,732	42,594
428	412	841	2,720	4,097	2,540	23,228	20,049	40,914	52,634
465	1,520	1,984	3,715	9,233	6,605	12,598	26,515	54,951	58,665
686	2,396	3,082	5,350	10,636	7,863	16,246	30,772	65,518	70,867
664	2,875	3,539	6,232	13,136	8,200	16,926	37,594	75,856	82,088
2,142	3,354	5,496	11,739	12,578	9,453	31,635	59,480	113,145	124,884
2,789	4,843	7,631	15,276	14,495	11,587	41,501	68,600	136,182	151,458
2,908	5,780	8,687	17,419	18,981	12,385	48,092	81,862	161,319	178,738
2,758	4,541	7,299	17,289	15,624	11,638	33,363	63,496	124,121	141,410
3,619	6,682	10,301	22,232	18,323	14,059	43,713	73,834	149,928	172,160
3,820	8,037	11,857	25,899	24,429	14,566	50,670	88,027	177,691	203,590

(第8表)

エカフェ域内低開発国の商品別・国別輸出入実績 (1964年)

(上段—輸出 fob、単位・百万ドル)
(下段—輸入)

		エカフェ域内諸国					域 外 諸 国					総 計
		低 開 発 国	先 進 国			合 計	米 国	英 国	E E C	そ の 他	合 計	
			豪州・ニ ュージ ーランド	日 本	計							
食 飲 料	食 料	668 668	48 145	264 40	312 185	980 853	382 774	343 44	155 101	478 552	1,351 1,478	2,338 2,324
	飲 料	32 32	0 1	5 1	5 2	37 34	8 44	20 17	20 12	47 17	95 90	132 124
	計	700 700	48 146	269 41	317 187	1,017 887	390 818	262 61	175 113	525 569	1,453 1,561	2,470 2,448
原 燃 料	原 材 料 (油脂を除く)	358 358	47 42	589 52	636 94	994 452	330 257	234 17	551 19	581 205	1,696 498	2,690 950
		動 植 物 性 油 脂	37 37	1 5	5 2	6 7	43 44	50 76	19 3	39 6	44 18	152 103
	小 計	395 395	48 47	594 54	642 101	1,037 496	380 333	253 20	590 25	625 223	1,848 601	2,885 1,097
	燃 料	461 461	120 8	287 15	407 23	868 484	110 51	177 12	241 10	316 264	844 337	1,712 821
	計	856 856	168 55	881 69	1,049 124	1,905 980	490 384	430 32	831 35	941 487	2,692 938	4,597 1,918
工 業 製 品	化 学 品	75 75	2 10	5 163	7 173	82 248	8 220	5 139	9 220	18 139	40 718	122 966
	加 工 品	361 361	74 38	65 778	139 816	500 1,177	408 451	189 238	114 326	414 523	1,125 1,538	1,625 2,715
	機 械	129 129	1 25	1 541	2 566	131 695	17 753	11 595	3 704	22 430	53 2,482	184 3,177
	雑 貨	92 92	11 4	5 85	16 89	108 181	205 80	130 62	71 73	140 116	546 331	654 512
	計	657 657	88 77	76 1,567	164 1,644	821 2,301	638 1,504	335 1,034	197 1,323	594 1,208	1,764 5,069	2,585 7,370
合 計 (特殊品を含む)		2,247 2,247	310 289	1,228 1,688	1,538 1,977	3,785 4,224	1,525 2,755	1,135 1,159	1,207 1,485	2,062 2,350	5,929 7,749	9,714 11,973